



東京女子医科大学腎臓病総合センター泌尿器科

Tokyo Women's Medical University  
DEPARTMENT  
OF UROLOGY

## 代用膀胱造設術を受けられる患者さんへの説明文書

---

膀胱全摘除術後は、尿を体外へ出すために尿路変向術が必要となります。

### 代用膀胱造設術とはどのような手術か

小腸を60cmほど使用して、新しい膀胱を作ります。袋に左右の尿管をつなぎ、新膀胱と尿道を吻合します。

#### 代用膀胱手術の合併症

まれに作成した膀胱(袋)の血流が悪く壊死をきたすことがあります。この場合には再手術が必要となる場合があります。また、袋からの尿漏れがあり長期にわたりカテーテル留置が必要な場合があります。また、手術中に代用膀胱作製不可能と判断した場合には、別の尿路変向術を行う場合があります。

#### 腸の合併症

手術後に腸閉塞という状態がおこる可能性があります。これは、腸管の麻痺によるものと、腸管が機械的に閉塞した場合におこります。この状態が長くつづく場合は鼻から胃・腸管までチューブを留置する処置が必要になります。また、腸管の縫合不全や腹膜炎が起こりうる合併症です。

#### 自排尿のリハビリ

手術後1～2週間経過すると、歩行、食事などが支障なくできるように回復します。その後退院までの間に、代用膀胱による自排尿を習得することになります。代用膀胱の容量が当初は50～100mlと小さく、このため尿漏れも多くなります。小腸上皮のカスが尿とともにドロッとでできますので、飲水を多くし尿量を多くする必要があります。また当初は自排尿ができず、自己導尿が必要になる場合があります。

その他、不測の事態が発生した場合はすみやかにご本人とご家族に状況を説明し、適切な処置をとります。

不明な点がありましたら、主治医、担当医にお尋ねいただくか、泌尿器科外来までお知らせ下さい。

Tel. 03-3353-8111(直通)

**代用膀胱造設術を受けられる患者さんへの説明文書**

東京女子医科大学泌尿器科学教室

Department of urology, Tokyo women's Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、処置に同意します。

平成 年 月 日 患者氏名

患者家族氏名

その他、特に説明した内容

a)

-

b)

-

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明医

\_\_\_\_\_